

中部ブロック会報 第35号

2020年度中部ブロック研究会 2021年2月20日(土)

開催: オンライン (Zoom)

【2020年度・中部ブロック研究会を終えて】 ブロックリーダー 中川 雅人(中部学院大学)



2020年は、新型コロナウイルスの拡大により、社会全体が変革を求められる年となりました。感染の収束が見込めない中、中部ブロック研究会でもオンライン開催を決定し、システム面・運営面でテストを重ねながら準備を進めてまいりました。初めての開催で不安もありましたが、結果的にはトラブルなく開催することができました。ご多忙の中、ご発表いただいた皆様、ご参加いただいた皆様にお礼申し上げます。時間や場所に関係なく参加できることのメリットも見出されましたので、この経験を今後の運営に生かしてまいります。

研究発表①【ゼミ生による高校生面接対策講座の実践報告】

○坂上 牧子(金城大学短期大学部)



坂上 牧子 先生

今回の発表では、前任者の取り組みを引き継ぎ、ゼミ生2名がそれぞれの母校にて行った面接対策講座について報告をした。

2017年度に製作された小冊子「高校生のためのManner Book」を活用した「面接対策講座」は、2019年度に3校17講座実施され、今年度はゼミ生2名の各出身高校で実施することができた。講座終了後に行ったアンケート調査結果では、両校ともお辞儀が一番参考になったとの結果が得られた。理由として、実践も含めたわかりやすい指導や一人ひとりに具体的なアドバイスをしたこと、身近な先輩たちのきちんとしたお辞儀を見たことでより強く印象に残ったと思われる。先生方からも卒業生の生徒に寄り添う指導が良かったなど高い評価を得ており、当学科の教育内容を知ってもらう良い機会となった。面接対策講座を実施した高校からの入学者数は増加傾向にあり、間接的なPR活動や学生募集にも有用と考えられることを報告した。

研究発表②【医療系専門学科間におけるコミュニケーション・スキルの違いとチーム教育】

○米本 倉基(藤田医科大学)



米本 倉基 先生

本研究はコミュニケーション授業の効果を他大学と学科別に比較することで、学科別のチーム医療教育の在り方を検討したものである。データは2020年度に1年生で授業を履修した5学科の612名と、他大学の250名の1年生を対象として、藤本ら(2007)のコミュニケーション尺度ENCOREsを用いての6つのスキルの変化を時系列で比較した。その結果、本授業は、同時期の一般的な理系学生の水準を上回る学習効果が確認できた。しかし、全体として「関係調整スキルの強化」、看護学科として「自己主張スキルの強化」、リハビリテーション学科として「関係調整スキルの強化」、医療検査学科として「全体のスキル底上げ」、放射線学科として「読解力の強化」、医学部として「他者受容スキルの強化」が必要であることが示唆された。〈引用文献〉・藤本、大坊、「コミュニケーション・スキルに関する諸因子の階層構造への統合の試み、パーソナル研究, 15, 2007

研究発表③【経営学説教授法に関する一考察】

○奥村 実樹(金沢星稜大学)



奥村 実樹 先生

高等教育機関において、経営学系学部に在籍する学生の数は多い。しかし一方で、その学習者の数に比べ、社会的に役立つだろうと考え経営学系に進学する学生のニーズを満たす学習内容が与えられているとは必ずしも言えない。本発表では、経営学のこれまでの一般的な経営学教授方法の問題点を指摘し、その進むべき方向性の1つを示唆することを目的としている(ここで焦点を当てるのは経営教育でなく経営学教育である)。

まず、従来の一般的な経営学教授方法を大きく2つに分類した。①学説理解とそれに伴う専門用語の理解 ②学説の理解を促す事例への当てはめ である。通常の大学の講義や各種試験・検定試験のための学習は①のため、現在の日本の経営学教育の中心は①となる。また、教科書などの章末問題の一部やケーススタディとして取り上げられるものが②である。学習者の中心となる大学生に対し効果的であるためには、①と②がどうあるべきかについて検討し言及した。

ミニシンポジウム【コロナ禍のビジネス実務と教育】

進行:手嶋 慎介(愛知東邦大学)



手嶋 慎介 先生

本ミニシンポジウムは、ゲスト招聘せず、学会員の取り組み事例や考察をもとに行った。登壇者は、中部ブロックに縁があるものの、所属大学が遠方であることから研究会へ参加しづらい状況にあった先生方である。本企画の実現は、ニューノーマルとも言われる「これから」を象徴するものであろう。これを機に、登壇者間での新たな共同研究も企画されているようであり、ピンチをチャンスとする第一歩になることを切望する次第である。

ミニシンポジウム【コロナ禍のビジネス実務と教育】

コメンテーター:加納 輝尚(昭和女子大学)



加納 輝尚 先生

今回、元中部ブロックのご縁でお声かけいただき、「コロナ禍のビジネス実務と教育」という、まさに本学会の真骨頂が具現されるミニシンポジウムに参加させていただいたことは大変幸運であった。4名の先生方からの発表はいずれも、コロナ禍を一つの機会ととらえ、専門とされる教育に精力的に取り組まれている示唆に富んだ実践報告であり、環境変化を受け入れつつビジネス実務教育のあり方を模索する会員にとって貴重なものとなった。

実践報告①【観光関連業界とビジネス教育】

貝掛 祥広(九州共立大学)



貝掛 祥広 先生

現在コロナ禍において、多くの業界が多なる影響を受けている。特に観光業界への被害は深刻な状況であるが、現状を受け止めつつも、止まない雨はなく必ず晴れの日が来るように、withコロナおよびafterコロナを見据え、観光が持つ力を再確認。

加えて、現在九州共立大学で取り組んでいる事例2つを紹介。

一つ目は、地元企業である航空会社の株式会社スターフライヤーの全面協力のもとエアラインスタッフ講座を開講。滅多に開示されてこなかったグランドハンドリング（地上支援業務）の業務をはじめ、単なる見学や講話ではない業界のリアルを体験させて頂く。

次に、関連業界への就職へ向けた資格取得への取り組みを紹介。資格取得に向けた取り組みおよび結果を通じて得られる成功体験が、学生の自信につながっているため、事例を交えながら紹介。

引き続き、変化に対応しながらビジネス実務教育のあり方を模索していきたい。

実践報告②【オンラインの実務一簿記・会計教育のこれから】

堂野崎 融(九州共立大学)



堂野崎 融 先生

新型コロナ・ウィルス感染症の対策により、リモートワーク・リモート学修が推奨され、さらに日商簿記検定においてもCBT (Computer Based Testing) が行われるなど、簿記・会計教育についても、変化にさらされている。

特に日商簿記検定ではCBT方式への追加に伴い、出題方式と出題数に変更される。さらに団体受験といった方式も追加されることとなっている。

そこでまず、日商簿記検定の変容について検討を行う。この変容に対して、どのように教授方法を対応するかを考察する。そのうえで、九州共立大学において簿記・会計教育を行った際に得られた知見、特に遠隔授業における演習問題の出題方法についての考察を中心にまとめていきたい。

実践報告③【現場から見るVUCAの時代のキャリア形成支援のこれから】

梶山 亮子(千葉経済大学短期大学部)



梶山 亮子 先生

現代の様々な環境の変化に対応するため、キャリアに対する主体性や適応力を高める必要がある。今回、キャリア教育世代（若年層）と氷河期世代（ミドル）についてキャリア形成支援をする立場として現場から見える価値観の違いを報告した。若年層はコロナ禍において主体性や適応力を発揮している。担当する「秘書学」では声かけやITを利用した関わりで予習を積極的に行う、検定試験の勉強を自発的に進める様子が見られた。公的データにはリモート勤務の20代が自ら積極的に情報を得ようとコミュニケーションを増やしているという結果もあり、ITツールが支援の鍵を握っていると考えられる。一方キャリアの節目にあるミドルは学びに対して積極的だがキャリアへの興味については20代よりも低いというデータがある。シニアになる前に必要な支援について考えてみる必要がある。それは自身が「産業ジェロントロジー」を学び、実際にシニアとの協働者としても感じることである。この学びも主体的で変化に適応するキャリアの形成支援に役立つのではないか。今後は「就労シニア」も視野に入れ世代の多様性に着目したキャリア形成支援について追究したい。

実践報告④【大学間連携のこれから】

西川 三恵子・正田 淳一(九州共立大学 共同研究チーム代表)



西川 三恵子 先生

正田 淳一 先生

愛知東邦大学と九州共立大学の連携協定後の活動内容について報告を行った。2017年当初は連携活動が進んでいなかった。1年後の2018年3月に中部ブロックの手嶋先生と西川先生の繋がりにより、愛知東邦大学で「プロジェクト研究会」を実施することとなった。2020年2月に九州共立大学にて「地域を考える研究会」を実施した。「地域を考える研究会」では、研究発表のみではなく、地元サッカーチーム【ギラヴァンツ北九州】の協力もありフィールドワークも実施した。双方の学生からの参加報告より、「お互いの活動に刺激を受けたことで大きな成長に繋がった。」という感想が大半を占めており、今後の大学連携のモデルケースとなる事例となった。withコロナ時代となり対面での活動が頻繁に行えなくなる可能性もあるため、研究発表や打ち合わせをオンライン授業で用いたteamsやzoom等を用いることで、対面以外で実施することの成果と可能性についても言及した。

【参加者アンケートの結果報告】 ブロックリーダー 中川 雅人(中部学院大学)

研究会後に実施したアンケートの結果を報告いたします。参加者32名中、24名からご回答をいただきました(回収率75%)。ご協力いただいた皆様にお礼申し上げます。ありがとうございました。

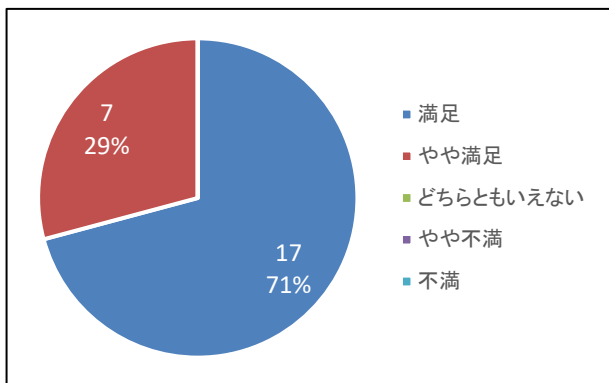


図1. 全体として、研究会のプログラムに満足しましたか

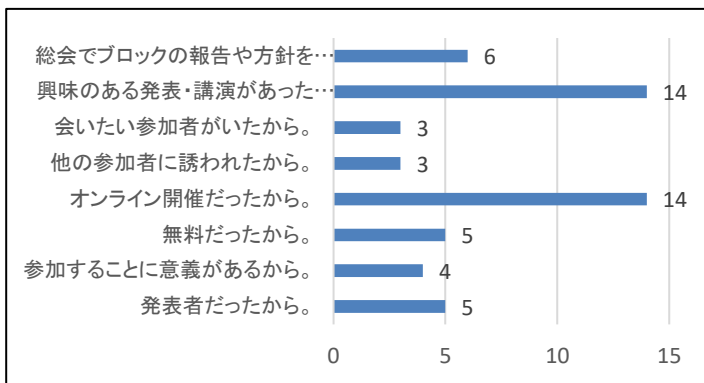


図3. 研究会に参加した理由(複数回答)

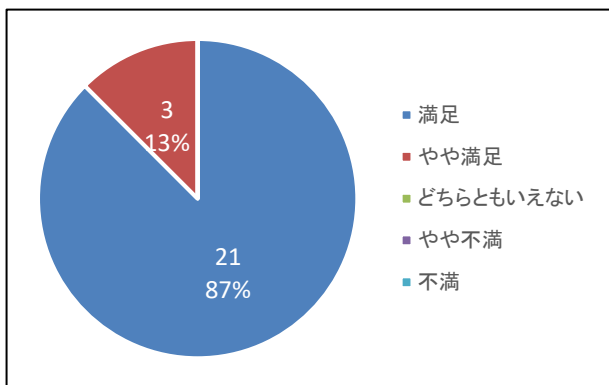


図2. 研究会の事前準備・運営はいかがでしたか

研究会、及び、事前準備・運営の満足度については、どちらも「満足」「やや満足」のみで100%となりました(図1, 図2)。初めてのオンライン開催でしたが、円滑に開催できたと考えます。

研究会に参加した理由では「興味のある発表・講演があったから」と「オンライン開催だったから」が最多となりました(図3)。例年、他ブロックや遠方の会員の参加はほとんどありませんが、今年度は多くの参加があり、オンライン開催のメリットが生かされたと思います。

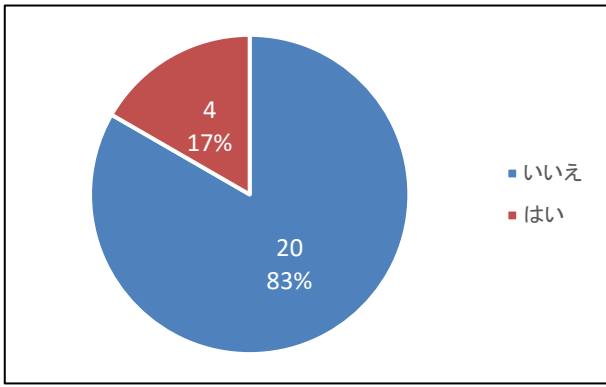


図4.オンラインで学会に参加するのは初めてですか

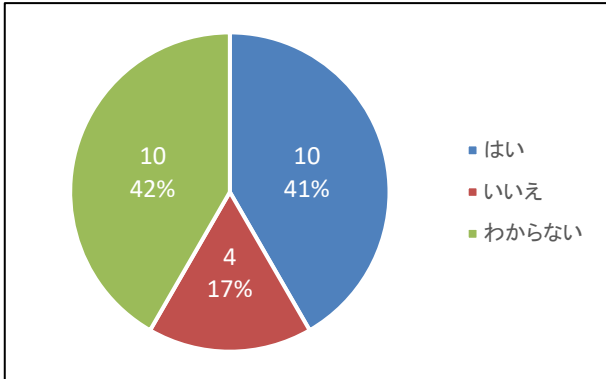


図5.オンライン開催でなくても参加していましたか

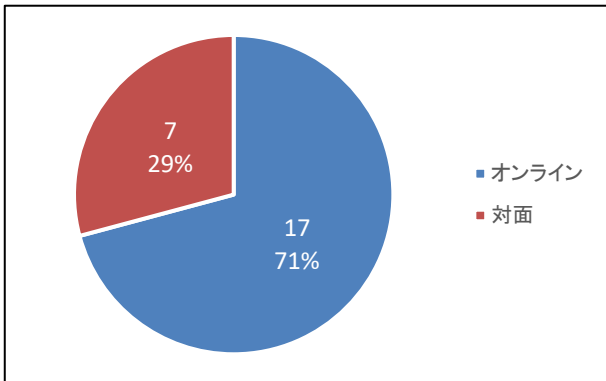


図6.研究会の開催方法として、あえて一方を選ぶとしたら、どちらを希望しますか

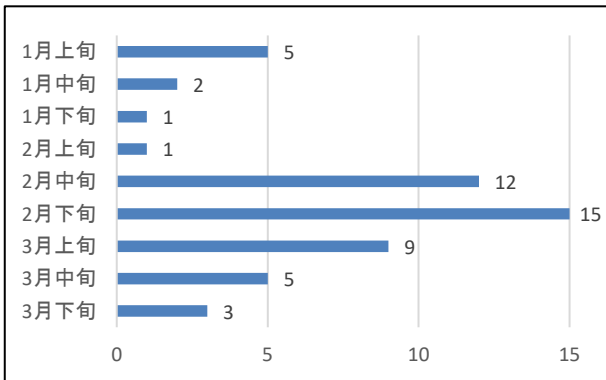


図7.研究会に参加しやすい時期はいつですか (複数回答)

参加者のオンライン学会の参加経験を質問したところ、経験者が8割以上となりました(図4)。今後は、さらにオンライン化が進み、経験者が増えると考えられます。

オンライン開催でなくても参加していたかを質問したところ「はい」と「わからない」が同数となりました(図5)。

「オンライン開催のよかった点」を任意で記述してもらったところ「移動時間やコストがかからない」「校務と重なっても都合のいい時間のみ参加できる」といった回答が多数を占めました。オンライン開催と無料化(今回限定の試行)によって、参加のハードルが低くなったと考えられます。

研究会の開催方法として、あえて一方を選択するとしたら、どちらを希望するかを質問したところ、オンラインが対面より多くなりました(図6)。

新型コロナウイルスの収束後も、オンライン開催を検討する必要がありそうです。

図6に関し、対面とオンライン、それぞれの希望理由を任意で記述してもらったところ、オンラインを希望する理由は前述のよかった点とほぼ同様でした。

一方、対面を希望する理由としては「緊張感がある」「情報交換やコミュニケーションには、現状、対面が有利である」等の意見がありました。

「オンライン開催に限定するという訳ではないが、ビジネス実務学会としては、まずはオンライン時代の可能性を模索・検討していくことが必要と思われる」との意見もありました。

これらの意見をふまえて、今後、オンライン化を検討していきたいと考えます。

研究会に参加しやすい時期を質問したところ、2月中下旬が上位となりました(図7)。ただし、参加者に質問したため、開催日の2月下旬が多くなったとも考えられます。

なお、図7は他ブロックの参加者の回答を除くとともに、後日実施した、参加されなかった会員へのアンケート結果を加えてあります。

この結果に基づき、次年度は、2月中下旬の開催を中心に日程を検討したいと思います。

その他、自由記述には、当日の運営や準備に対する温かいお言葉、次回の会場や運営参加のお申し出等、多数のご回答をいただきました。今後の参考にさせていただきます。ありがとうございました。

【リモート開催について】 ブロック運営委員 坂田 裕介(藤田医科大学病院)

新型コロナウイルスの感染拡大が続くなか、新たな生活様式への適応が求められ、学びや働き方のスタイルも劇的に変化しました。このような状況から、中部ブロック研究会はオンライン開催となり、参加者に加えて運営委員も各々の場所から進行にあたりました。

オンライン開催では移動する必要がないことから、他ブロックからも参加いただけるのではないかと希望と、実務家の方にも開かれた研究会でありたいとの思いから、会員とビジターの方は参加費を無料としました。

ご承知のとおりZoomには、ミーティングやウェビナーがございます。運営委員会での検討の末、今回はミーティングを使用しました。その理由は、①参加者同士がお互いを認識できること。②操作や機能に比較的慣れていられると思われること。③ブレイクアウトルーム機能により、参加者同士が自由にディスカッションできることです。ご参加いただきました皆様、オンライン開催はいかがでしたでしょうか。

お知らせ①【全国大会 ぜひご参加ください】 大会統一テーマ『ニューノーマル時代の新しい教育』

<大会日程及び会場>2021年6月12日(土)・13日(日) オンライン (Zoom)

1日目には、総会と研究発表(口頭発表)を行います。2日目に基調講演および、ワークショップを企画しております。詳細が決まり次第、全国大会のご案内(第二報)でお知らせいたします。

お知らせ②【中部ブロック研究助成について】

今年度の研究助成につきましては、現在、運営委員会で検討中です。決定次第、メールでご案内いたしますので、今暫くお待ちください。

ご意見、ご要望等ございましたら、①会員番号、②会員種別(正会員、学生会員等)、③所属、④氏名を明記の上、下記の問い合わせ先までご連絡ください。

※お問い合わせメール naka@chubu-gu.ac.jp (中部学院大学 中川)

【編集後記】

ブロックサブリーダー 岡野 大輔(金城大学)

新型コロナウイルス感染症の終息が見渡せない状況のもと、2021年度の第40回全国大会は「ニューノーマル時代の新しい教育」を統一テーマに、今年度同様、オンラインでの開催が予定されています。本年度の中部ブロック研究会も初めてのオンライン開催となりましたが、他のブロック研究会所属会員のご参加もあり、今後のビジネス実務やビジネス実務教育に関する活発な議論が展開されました。今回も、研究会の開催及び会報へのご執筆にご尽力、ご協力を頂きました先生方、参加者の皆様には心より御礼を申し上げますとともに、引き続きご支援を賜りますよう宜しくお願い申し上げます。